



2022 摂津祭レポート

# 3年ぶりに通常規模で開催! 甲南大生の“つながる力”が 煌めいた3日間



毎年11月に岡本キャンパスで行われる、甲南大学の大学祭「摂津祭」。学生はもちろん、地域の方々も大勢お越しいただき賑わう、歴史と伝統ある祭典です。しかし、長引くコロナ禍によって2020年は中止に。2021年は事前予約のうえ小規模での開催となり、制限された状況が続いていました。

2022年は「今年こそ!」と、実行委員会が中心となって春から綿密に準備。コロナ禍の状況をにらみつつ、11月4日(金)〜6日(日)、3年ぶりに通常規模で「第58回摂津祭 Sets UP!」を煌めけ甲南の秋」の開催へとこぎ着けました。

当日は予想を上回る来場者を迎え、著名人を招いてのトークショーや、特設ステージでのライブ、模擬店、展示、キャンパスを巡る謎解きゲームなど、盛りだくさんのプログラムを実施。3日間とも大盛況のうちに幕を閉じました。大役を終えてひと息つく、実行委員会執行部の委員長 水谷さんと副委員長 山下さんに、準備の過程や当日の様子を振り返ってもらいました。



次ページでは  
摂津祭開催に向け  
奮闘した学生の声を紹介!

2022 摂津祭レポート  
執行部学生インタビュー

# 伝統を引き継ぎながらも 新しい基準を示せた摂津祭。 誇りをもって次代に伝えたい



**摂津祭実行委員会執行部 副委員長**  
やました ともき  
**山下 知希**さん 法学部 法学科 3年次  
実行委員会のムードメーカー的存在。バスケットボールサークルの代表でもあり、人への気づかいや調整力に長けている。副委員長を務めたことでさらに磨いたコミュニケーション力を生かすべく、卒業後は営業職を志望。

**摂津祭実行委員会執行部 委員長**  
みずたに あすか  
**水谷 明日香**さん 法学部 法学科 3年次  
1年次から摂津祭運営局プロコンサート局に所属、2年次に同局の局長を務め、3年次になり前執行部から「委員長をしてみないか」と勧められ委員長に。責務を通して心がけていたのは、みんなの意見を聞いて公平に判断すること。大役を終えた今、中学時代からの夢である警察官をめざして勉強中。

## 感染症対策も講じながら 飲食系模擬店や 新たな試みを実現

「通常通り開催できない状況が続いてからの今年、どのような思いで準備を進めたのでしょうか。大変なこともあったのでは。」

**水谷**：当初から、今年こそは通常規模で開催したいという思いがありました。5月の第一回全体定例会議で実行委員会として通常規模での開催をめざしたいという方針を固め、それから大学に学生側の思いを伝え、感染症対策を検討しながら話を詰めました。でも、3年次の私たちはコロナ以前の摂津祭を知りません。過去の資料を見たり、先輩から話を聞いたり、学生部の方に教えてもらいながら準備を進めていきました。特に飲食に関しては1学年上の先輩でもわからないことがあり、模擬局を中心にゼロからスタートの感覚の中、準備を進めていきました。

**山下**：いちばん苦労したのは飲食系の模擬店を可能にすることです。すんなりOKというわけにはいかず、飲食できるエリアを絞るなど、対策を講じて交渉を重ねることでようやく実現しました。もしダメだったとこのために、出し物系の模擬店を増やすことも並行して考えていました。全プログラムが決まったのは8月半ばでしたが、もし10月ごろに感染拡大

大したら…と気が気ではなかったです。  
「テーマの決定やプログラムの企画にあたり、実行委員会としてこだわったことは。」

**水谷**：過去の摂津祭のテーマは実行委員会が決めていたのですが、今年は初めて学生から公募してみました。久しぶりの通常開催ですし、みんながかかわって、学生全体で盛り上げられるようにしたいなど、「組み立てる」という意味のSets Upは「摂津」にも通じることばです。みんな力で合わせて摂津祭をアップする、盛り上げていく。そして学生全員が輝けるように…という願いを込めています。

**山下**：他大学では「大学祭っていつなの？あ、もう終わったんだ」という学生



過去のアルバムで当時の摂津祭の様子を確認する2人

## 安心・安全に配慮しつつ 盛り上がる、その基準を 示すことができた

「委員長、副委員長を務めたことで、どんな気づきや学びが得られましたか。」

**水谷**：大学祭は楽しいものなので、最初は自分もどこか遊びの一環のような気分だったと思います。でも企業の方々からご支援いただいたりする中で、「私たちに成功させる責任がある」と感じるようになりました。ただ、私はもともと人に頼ることが苦手で、一人で抱え込んでしまうタイプ。山下くんをサポートしてもらいながら、みんなと信頼関係を築くことで、人に任せたいほうがいい場面では思いきって任せられるようになりました。

**山下**：水谷さんとは普段から同じ学部で過ごしていて、責任感が強く人に頼ることが上手でないのを知っていました。だから水谷さんに業務が集中しないように、委員長に代わってみんなの業務を調整することも副委員長の役割だと気づいて、それぞれの個性を理解し、メンバーをまとめ上げることに徹しました。

「次は来年への引き継ぎですね。今後の摂津祭に向けて、伝えたい思いはありますか。」

**水谷**：今回、卒業生の方と話をさせて



3年ぶりに摂津祭を通常規模で開催するために尽力した実行委員会のメンバー

も多いらしくて。テーマを公募することで、大学祭の存在そのものや、今年は通常開催であることも知ってもらえたんじゃないかと思います。また、プログラムでは新たに謎解きゲームを加えました。各教室を回ってヒントを集めるのですが、僕はコロナ禍でキャンパスに来る機会が少なかったので、隅々まで大学を知ってほしいというねらいからです。

## 当日の大盛況を体感して 報われたプレッシャーや 責任感

「そして迎えた本番、来場者の反応はいかがでしたか。特に好評だったプログラムは。」

**水谷**：3日間で1万人近くの学生や地域の方々が来てくれました。学生に周知するだけでなく、近隣にチラシを投函させていただくなど、地域へのアピールにも力を入れたかと思うと幸いです。特に、漫才コンビのスマイルさんに司会をお願いしたビンゴ大会は予想以上の盛り上がり。謎解きゲームも、小さなお子さんから楽しんでくれていました。

**山下**：格闘家の武尊選手や俳優の生駒里奈さんを招いてのトークショーも、事前のチケット販売のときからすごい反響で好評。苦勞して実現させた飲食系の模擬店も、午前中で売り切れてしまう店が出るほどでした。

「3日間で印象に残ったエピソードがあればお聞かせください。」

**水谷**：私はもう前日から感動してしまっ。ステージ発表のリハーサルや、テントで準備している様子を見ると「やっ」と形あるものが見られた「明日はここにお客さまを迎えるんだ」と、こみ上げてくるものがありました。当日もキャンパス内で来場者の楽しそうな声が聞こえてきて、プレッシャーや責任を感じながらも本当にやっって良かったと思えました。

**山下**：僕は当日、スーツの胸元に「副委員長」と書いた「なんぼーくん」（甲南大学公式キャラクター）のぬいぐるみを着けていたんですが、地域のおばあちゃん「可愛いねえ」とって写真を撮ってくれたり、後輩が「手伝いましょうか！」って来てくれたり。そういう人とのつながりの楽しさ、ありがたさを実感しました。最終日にはサプライズもあったんです。全プログラムが終わるころ、執行部の全員が「Stage (Commons) 地下にある多目的ステージ」に呼び出されて、行ってみると…

**水谷**：実行委員会のメンバーや、前回の執行部の方々から花束を渡されたんです。「楽しかったよ」「良かったよ」とって尊敬する先輩方と言われて、涙が止まりませんでした。